

会 議 録（概要）

会議の名称	第5回 佐渡市総合計画審議会
開催日時	令和3年12月16日（木） 13:30～15:30
場 所	佐渡市消防本部 多目的ホール
次 第	1 開会 2 議題 (1) 佐渡市総合計画 基本計画（案）について 3 閉会
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	審議会委員 46名（うち欠席 10名） 事務局：企画課 課長補佐 笠井 貴弘 政策推進係 係長 安藤 辰也 新庁舎整備係 主任 源氏 諭史
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 序論（案） ・ 基本計画（案）
傍聴人の数	0 人
備 考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
審議会長	<p>（挨拶）</p> <p>来年の一月に審議いただいた内容をもとに、基本計画を修正してパブリックコメントに出したいということですので慎重審議をよろしく願いいたします。</p> <p>時間的には皆さんも大変ですので午後3時頃を目途に終了したいと思います。</p> <p>では始めたいと思います。</p> <p>事務局お願いします。</p>
安藤政策推進係長 A氏	<p>（基本計画 資料に沿って説明）</p> <p>参考資料のことについて。1ページ目の下半分については、もう一回審議して見直していただきたい。意味不明のような文書となっています。</p> <p>前回の審議委員会の中では、生涯学習の推進の3番芸術文化の推進のところ、部会の中でレクリエーション（以下「レク」）を入れるということを審議いただいて提案したが、今回もレクが入っていません。部会でも、教育委員会でも議論して平行線だったので、折衷案としてスポーツはスポーツ、レクはレクで生涯学習の中に入れることで合意を得て、審議会で提案させていただいた経緯がある。ぜひ、もう一回、この機会に入れてほしい。多数決でも結構なのでレクという言葉を残すのか残さないのか決めてほしい。</p>
審議会長	<p>ありがとうございました。今のは5ページの基本目標3の施策として生涯学習の推進があつて、施策の展開のところ、1、2、3とあり、3の芸術・文化「・レク」の推進として入れたいということ。</p> <p>多数決でよいか。どうすればよいか。入れたほうがよいという人、挙手をお願いします。</p>
審議会長	<p>（賛成者5名が挙手）</p> <p>5名。ありがとうございました。</p> <p>要望はわかりますが、芸術、文化、レクというのが言葉のレベルがそろわないということで挙手がなかったと思う。皆さん、ありがとうございました。</p>
安藤政策推進係長	<p>さきほどのレクに係る経緯を整理すると、教育・文化部会で議論があつた。スポーツ・レクにしようか、スポーツだけにしようか、結果、生涯学習のところに芸術・文化・レクとなった。部会や審議会での内容は、その都度企画課から各課に照会を掛けている。社会教育課が生涯学習計画に沿って進めたい意向を受け、レクを外した。企画課や庁内会議というより、主管課の思いがあるので理解していただきたい。</p>

B氏	7ページの「子育て支援、健康長寿の推進」の目標値の成果指標だが健康寿命（平均自立期間）要介護2以上、これは2「以上」とする表記でよいのか、「以下」のほうがよいのか。よくわからなかった。
安藤政策推進係長	健康推進室、高齢福祉課と協議し、要介護2以上というのが通常使っている言葉ということだった。
審議会長	「以上」というのはこれより良いということか。
B氏	健康寿命という意味合いは「2以下」のほうが意味としては通る。「以上」になる方の年齢が伸びるほうがより健康でいらっしゃる方が多い、高齢になっても健康状態であることを考えると「以上」なのかなど。以上というのは要介護2～4ということか。
笠井企画課長補佐	出典が国保データシステムであり、健康寿命の定義については明確に打ち出せていない。全国の市町村含めてどういった指標がいいかという議論がされており、現時点では要介護2以上という言葉を使っている。他の自治体もこの指標を用いているところが多いため、この指標を使わせていただきたい。
A氏	9ページ、防災、減災ということで水害、自然災害ということが重要視されているようだが、できれば二宮神社の火事の件もあり、文化財保護を主な取り組みに明記してほしい。燃えてしまうとそれきりになってしまう。佐渡市はこれから大事にしていかなければならないと思う。スプリンクラーを設置するとか考えていただきたい。どうか。
安藤政策推進係長	重要な観点だと思うが、重点横断的などころではなく、分野別か個別計画で記述を検討するのが妥当だと考えている。
C氏	7ページの出生数はどういう数字か。
安藤政策推進係長	10ページ脱炭素社会の目標値、どこからの数字か。 7ページの出生数「287」という数字は、佐渡市の個別計画の中で令和8年度に向けた数字であり、そこの整合性をはかって設定した数字である。具体的には横ばいの時期もあるが、1.1倍増を狙っていくとこの数字になる。
笠井企画課長補佐	10ページの指標について、新潟県の自然エネルギーの島構想、2050年までに実質ゼロを見据えた現況値と比較し、逆算した数値である。

D氏	<p>農業について、5ページ、多様な担い手の確保になるのかもしれないが、こまかく見ると企業の農業参入の促進。色々な企業の方が農業に入ってくることによって弊害が出ているのも全国的に聞いている。田を買ったのが資材置き場になったとか。うまく儲けが出ないということで放棄して荒地になったなど。国仲平野のいいところが荒地になる方向になると大変だと思い、こういう表記がよいのかどうか疑問に思った。</p> <p>医療の問題。4ページ、新聞にもあるように佐渡地区の医療は、厚生労働省が全国17の対象地域の一つにあげている。病床の問題とか医療どうするという計画を見直す地域になる。どのようにとらえているかお聞かせいただきたい。</p>
安藤政策推進係長	<p>休耕農地が増えているというのは事実で、ただ、どこの土地を残す、どう活用するというのを地域の課題として話し合う取り組みも進めている。それが施策の展開で人・農地プランというものである。また、担い手不足の対策として、企業が参入して機械化・大規模化する二つの取り組みがあると聞いている。</p> <p>医療については、施策の中で医療体制の維持・推進にあたる。佐渡の中で医療のあるべき姿を検討して、医療の維持や市外の医療機関との連携が書かれている。</p>
D氏	<p>自分の地域も集団で法人化してやっている。そういう意味では企業である。企業が地域の農業を守る。確かに家族農業だけでは地域農業は守りにくい。しかし、このような文章で企業の農業参入と書かれてしまうと大きな企業が土地を買い占めてしまう、あるいは別の用途に使うという心配が出てくることを危惧した。</p> <p>それから、市の医療の縮小計画というのは国の基準よりもっと厳しくみている。そうするとますます病床が減る、病院がつぶれる、というのが現に起きようとしている。佐和田病院がなくなるかもという話もあり、相川病院も院長が退職するという話を聞いた。病床が減る。両津も移転後は病床が減る。佐渡市の全体の病床減が加速している。それに対して私たちの計画がそれでいいのか。病院、病床を守れとか誰でも医療に携わっていけるように医者、看護師を確保してほしいというテーマになると思ったので質問させていただいた。</p>
審議会長	<p>確かにその通りだと思う。こういう中に反映されるといいのだけれども。貴重な意見ありがとうございました。</p>
E氏	<p>今、医療問題も具体的にどうしようか検討しているところ。佐渡汽船問題についても具体的にどうするという話は出てきていない。ここにも具体的な記述はない、この記述は市民の医療に影響のない医療計画をつくりますとかそういうような記述を今のところするしかないと思う。具体的に書こうとしたってなかなか書けないと思う。そのあたりどのような考えなのか。</p>

笠井企画課長補佐	<p>様々な分野で課題がある現状を認識している。この総合計画は、課題を認識しつつ、5年10年を前進させていく最上位の計画である。個別計画等と矛盾がないように記述している。</p>
審議会議長	<p>5年計画、あわせて10年計画、個別のものは多分佐渡市が組織しているのか、病院がやっているのかわからないが、懇談会、審議会があって、具体的な話はそちらが進めているのかなと思っているが今ほどの事務局の説明でよいか。</p> <p>他になれば次に進んでいきたい。個別のことに進めていく。事務局、説明をお願いします。</p>
安藤政策推進係長	<p>(資料説明)</p>
審議会議長	<p>このあと、事前に皆さんに配布したものを含めて、質問意見をいただきたい。</p> <p>多岐に渡るが事前に配布されたもの、今説明を受けたもの、合わせて、黄色の部分が前回のものに比べて具体化、充実させたり、変更した部分だということだが、質問意見あれば。</p>
F氏	<p>2ページの1、消防体制の整備というところで、目標値、関係機関との連携訓練を実施するとあるが、どういうことか。</p>
安藤政策推進係長	<p>災害が多発している。事故も含めて対応をできるように消防団や県の機関、警察などの団体と訓練をする回数と消防からは聞いている。訓練をした結果、どう防げたかという指標ではないが、実施回数となっている。</p>
C氏	<p>18ページの5の2の人権、主な取り組みにLGBTの説明で性的少数者との記述がある。10人に1人と聞くこともあり、すると「少数」ではないのではないかと思うのだがどうか。</p> <p>子ども教育3の2のキャリア教育、この言葉の意味を教えてください。</p> <p>また、施策の展開1は今までやってきた学校の現状ですが、教育というのは一人ひとりの子どもが幸せになるためにある。点数(を取る)が幸せになるとは限らないと思う。そのために大人がやる教育というのは大人が子供を幸せにする教育でなければならないと思う。今の学校はつめこみ教育が多い。考えさせるというのが大事。考えて、発見する。楽しいと思う。実感させてあげる。一人で考えて行動できる大人に育てる。また、みんなで考えて、力を合わせてそんな大人になれるような、そういうことが大事なんじゃないかと思うので、目標値が偏差値というのは違うと思う。</p>

安藤政策推進係長	<p>本日配布の資料、5－2人権の尊重 現状と課題の3つ目黄色、性的少数者 LGBT、少数というのが気になるということについて。世間一般の表現があるので、同じ言葉を使わせてもらった。</p> <p>同じく、3－1子どもの教育の推進では、1番目に学力、2番目にキャリア教育、3番目に家庭と地域が協働して進める内容となっている。2番目のキャリア教育は、将来の職業や自分の将来に向かって必要な農業を学習する内容。発達段階によって取り組み方が違い、小学校であれば佐渡学、中学校では企業が抱える問題点を中学生の考えで自分なりに考えて学習する課題解決型職場体験などがある。1番上は学力、2番目は地域でのびのびと学習できる取り組みを書かれていると認識している。数字の設定が疑問というのは審議会で議論いただきたい。</p>
C氏	<p>目標値だけでなく学ぶ意欲を高め、確かな学力等育成する方針となっていて、点数を取りましょうという意味合いに捉えられるが、一番上にするのはどうかと思う。</p>
審議会長	<p>施策の展開の1、学ぶ意欲を高め確かな学力のところ目標値を学力検査のNRT（偏差値）の目標が上がっているが、そこがどうか。事務局の説明では子供たちののびのびとやっていく。教育は2のところで行っていいのではないかという趣旨の回答。</p> <p>どなたかご意見は。</p>
G氏	<p>経験を情報共有したい。佐渡に来る前に学校教育関連、小・中学校に教材を販売する会社にいた。NRT 試験も売っていた。神戸市、QU テストも流行っていて、心理テスト。不登校、いじめの防止に自己肯定感を持っているか、孤独を感じていないか。人間関係つづけているかなどのアンケート調査を数値化したものがQUテストだった。お金のかかることなので学校ごとの予算によるが、神戸市では実施されなかったが、他の市では市全体でQUテストをやっていた。ご存じでなければ検討して、学力以外にも数値化するテストがあり、比較してもらってもよいと思う。目標値は必要だと思う。幸せに生きているかなんともなくわかるよりも公的に認められたアンケート調査を実施してみて反映できるなら、してみてもよいのではと思った。以上、情報共有として。</p>

H氏	<p>私も数字で全てというのは好きではないが、目標がないと市の方針としては成立しない。学力が低い高いで人間の価値が決まるわけではないが、子どもが資格を取りたいとか、大学へ行きたいと思い始めたときに、ある程度の基礎教育ができていないと方針を変えるということができない。そういう意味では小・中学校で基礎教育をちゃんと受けさせてあげることが一番大事。教育方針を大きく変えるのは難しい。国がゆとり教育に切り替えて何年かやって、やっぱりよくなかったとって方針を変えた。その頃に育った子達はゆとり世代と言われて就職時もばかにされて、そういうかわいそうな子たちができてしまうことを考えると急速に教育方針を変えるというのはどうかと思う。一部の私立でやってもらえればよいことで、行きたい人は行けばよい。行政でやっていく学校としては基礎学力をつけさせてあげるとするのがその子の将来につながると考える。</p>
I氏	<p>学校の立場から意見申し上げる。失礼ですが、多くの方々は数十年前、どのような授業を受けてこられたかという、知識を覚え、技能を覚える授業を受けてこられたと思う。学力＝知識、技能のことを指しているのとらえているかもしれません。C氏さんはそれだけでなく考える力、表現する力が必要と言われた。実際、佐渡に限らず、知識・技能の偏重ではなく、思考力、判断力も重視、学びに向かう力を高めることを進めている。NRTは今の知識、技能だけを特定するものではない。思考力なども入っている。決して偏った学力ではない。QUテストも行っている。学校現場では目的に応じたテストを有効活用しながらやっている。よって、この目標は学校現場としては問題を感じない。</p>
C氏	<p>小学校に通う息子が2人いて、ご意見あった教育について、あまりそれがなされていないと思った。考えるよりも覚える、繰り返すが多くて。もっと大事なものがあるのでは。子供たちや先生も苦しく、ギリギリのところまできていると思う。子供たちが幸せで、先生がいきいきした教育ができる、先生が楽しいという学校になっていくべきでは。</p> <p>オランダでは宿題もなければ休みも長くて、日本より学力は上。大人になって生産量も1.5倍。そういった国を見習うと良いと思う。教育界が心配だ。</p>
D氏	<p>学力の目標値をここに表記するのは賛成できない。いろんな学力がある。数値をあげるとそれに向かって、現場の先生方は集中せざるを得ない。縛られてしまう。点数にこだわる先生も増えてしまう。フィンランドは学力が高いといわれているが、テストテストといわない。賢い子供にしたい。そういった希望と数値で表すのは違うと思う。賛成できない。</p>

笠井企画課長補佐	<p>今ほどの学習の関係、8ページの部分、当初、この計画を組み立てていく中で、指標が一般的にわかりにくいのではという話から教育委員会と協議した。学校現場の視点では、学力を上げていく視点と地元のことを知るといふ視点など、様々な視点で教育が求められている。事業評価も義務付けられており、その結果については、議会にも報告している。教育現場から上がってきた指標でもあるため、教育のほうの考え方を尊重したい。いかがか。</p>
C氏	<p>さきほどの説明は、このままでいきましょうということか。私は違うと思う。教育委員会の教育長ともう少し話したほうがよいと思う。</p>
安藤政策推進係長	<p>審議会は本日で5回目ですが、終わるたびに担当課にフィードバックして回答が上がってきている。学校教育課と教育長と話して上がってきたものと聞いている。</p>
C氏	<p>主な事業のところ ICT 機器の研修会、急速に取り入れていて、進んでいるが、子供の健康のことを考えているのかと思うところがあって意見している。ICTは本物ではない。タブレットがきたためにいい面もあるのかもしれないが。脳の使われ方が違う。タブレットの使用は前頭葉の成長に妨げがあると聞いている。電磁波等の問題等も含め健康を害する部分もあると思うので、そこのところどうかと思う。</p>
笠井企画課長補佐	<p>指標の設定に関してはもう一度、教育委員会とご意見を含めて協議したい。繰り返しになるが、ICT教育は今の時代の流れでもあり、ICT教育だけをやるということではないことはご理解いただきたい。</p>
C氏	<p>ICT教育は使うことが目的になっている、手段だと思う。</p>
J氏	<p>ICTの活用、教育においてのことはデジタル分野、アナログ、まじりあわない部分がある。学校教育でタブレットなどを使い新しいデジタルの教育を取り入れている。日本が遅れをとっているところの見直し、国の施策、一貫の流れの教育。デジタルはデジタル、アナログはアナログと親が教えていく。新しいものに目がいく。親が教えて子どもに判断させるのも教育。これからはデジタルの方向で進んでいるし、スマホ、タブレット、PC、デジタルの中にいる。そうでなかったら昔の生活をできるかという話になる。親が子供にどう話をするかということ。100%デジタルという話ではない。</p> <p>勉強も本人がどこですか。高校、大学と順調にいつて娛樂をして遊んでいて本に目を通すことをしない。本人がどこで取り入れるか。本人の人生の一つ。</p>

B氏	<p>子どもについて言及される部分はそこだけなので、広い意味で子どもたちにどう育ててほしいか書いたほうがよい。</p> <p>佐渡の子どもはどうかわからないが、日本の子どもたちは幸福度が下のほう、自殺が多い、日本が一番。そういうことを踏まえるといろんな子供たちがいるが、一人ひとりが輝ける教育ということが感じられる内容がよいのかなと思う。</p>
C氏	<p>子供がタブレット持ち帰ってきた。普段は自分から生み出すような遊びをしているのに、やめようというまでやめない。子どもの自己コントロール能力は大人程発達していないと聞く。タブレットの使用はよく考えてやらないとといけないと思っている。何年か前から議会に請願書を出して、いろいろとやっている。コロナかになって進んでしまった。子供の健康のことを考えて、時間をかけてやるべきだ。それが心配だ。</p>
審議会長	<p>教育のことなので多数決というわけにはいかない。</p>
K氏	<p>主な事業の中で ICT 教育にかかる研修会、「効果的に」と入れたら一般的に通用するのではないか。</p>
A氏	<p>LGBT の言葉についての意見があった。用語解説のところ外来語は載るのでそのまま LGBT を性的少数者というのはいいのではないか。</p>
G氏	<p>移住者数については高い数値目標が設定されている。U ターン者をなんとか増やしたいと思っているのだが、増やすためには高校生の意識付けが大事。施策の 3-1、3-2、小中はあるが、高校生へのアプローチは県立なので入れないのか、考えが及ばないのか、高校という文字を入れるのが難しいのか。高校教育に入るとたんに郷土教育が抜けていく。高い数値目標を設定するのであれば、一緒に努力するべき。高校生の政策は佐渡市の計画に入れにくいものなのか。</p>
安藤政策推進係長	<p>キャリア教育は教育大綱の中でも幼児から高校まで一貫したキャリア教育を行うこととなっている。高校生の記述について教育委員会に確認する。</p>
A氏	<p>さきほどの生涯学習の件、施策の 3-3。さきほどの意見を受けて、右下にある役割分担 教育の考え方 スポーツ活動に参加する環境を整えようというところ、「スポーツ」という文言を抜かなければならない。調整をお願いします。</p> <p>道路の設備について、生涯学習やスポーツ推進計画でウォーキング、ジョギングを推進している。市道、県道について歩道がついていないので、施策展開の 2、3、歩道の整備を入れてほしい。</p>
安藤政策推進係長	<p>本日の議題について、21 日までにご意見を受け付けたい。いただいたご意見をもとに改めて関係課と調整し、1 月 11 日にパブリックコメントの資料としたい。また、パブコメで出た意見を含めて修正したものを 2 月末の審議会でお示ししたい。</p>

